

2021 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070901832		
法人名	株式会社ケアリング		
事業所名	グループホーム東光寺	ユニット名	
所在地	福岡県福岡市博多区半道橋1丁目18番35号		
自己評価作成日	令和3年10月25日	評価結果市町村受理日	2021年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2021年月日	評価確定日	2021年12月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様に安全・安心にその人らしく生活して頂ける様、個々に必要な支援を提供する。お米は耶馬溪の美味しい水で育ったお米を取り寄せ敷地内に野菜も栽培し収穫の喜びも感じながら新鮮な季節の物を頂いたりもしている。医療体制として月2回の定期往診や訪問歯科にも週1回来て頂き又、週1回の訪問看護師、薬剤師、管理者が看護師のためそれぞれと連携をとり日々の体調管理を行っている。必要であれば訪問マッサージも利用し施設の生活の中でも毎朝のラジオ体操、機械を使用しての全身運動等も行っている。コロナ禍の中でも感染対策を充分に行った上で御家族の面会も中止せず御家族の関係が途切れない様、心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

博多区半道橋にある“グループホーム東光寺”は株式会社ケアリングが運営している。系列に2つのグループホームがあり、定期的な会議を行うと共に、協力体制も取られている。“東光寺”は木造2階建てで、1階にデイサービスを併設しており、デイサービスに通う地域の方と一緒に行事を行う機会も作られている。日々の生活では“自由な生活”と“自立支援”を大切にされており、ご入居者の方々には様々な役割を担って頂いている。管理者（看護師）と介護職員が結束し、ケア内容の検討も密に行われ、24時間の医療連携も続けている。コロナ禍も家族の方々の思いに寄り添い、面会方法を丁寧に検討したり、電話で情報交換ができるように努めている。ホーム開設後16年が経過し、2022年1月からリビング、廊下、浴室、居室等のリフォームが行われ、更に暮らしやすいホームになることが期待されている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、入居者様と一緒に理念を唱和し関係を深めながら実践に取り組んでいる。	「ともに嬉しい時は喜びあい、困っている時は助け合い、敬う心をいつももち、自分らしく安心して暮らすことのできる憩いの場にいたします」と言う理念を大切にされている。自由な暮らしになるように努めると共に、ケア内容の統一を図り、職員個々のケア等への拘り（こだわり）に関する情報交換も続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以前は町内の夏祭りに参加したり中学生の職場体験を受け入れたりし交流を行っていた。	コロナ前はホーム周辺を散歩し、地域の方々の花壇を見たり、ご挨拶をされていた。山王公園の桜の花見なども楽しまれ、半道橋の町内の夏祭りに参加し、デイサービスと一緒に焼きそば作りを担当し、地域の子供達との交流も行われていた。中学校や専門学校（コロナ禍も継続）の体験学習を受け入れ、幼稚園との交流の交渉も始めていた。	今後もコロナ禍における地域交流の在り方（動画交流等）を検討すると共に、幼稚園児とのご縁作りも進めていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、町内会等を通して認知症の情報を提供し理解して頂くよう発信源になるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月毎に開催していたが現在は書面、電話等にてご意見を伺いサービス向上に努めています。	コロナ禍は書面会議を行っている。運営推進会議のメンバーの方と、ホーム周辺や1階のデイにボランティアで来られた際にお会いする時もあり、情報交換を続けている。コロナ前は地域情報や防災に関する情報交換も行われ、町内の回覧板を施設にも回して頂けるようになった。今後も感染状況に応じてホームで開催していく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解らない事や不明な事があると連絡しアドバイスや情報提供を受けるようにしている。	制度改正内容は内部で勉強会を行ったり、系列のグループホーム同士で情報交換している。不明点は博多区役所の担当者に相談しており、コロナ対策や事故報告内容、人員等に関する体制を相談し、親身にアドバイスを頂いている。	

6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会で定期的に研修、見直しをおこなう。	コロナ禍、身体拘束適正化委員会（管理者・地域包括・地域住民代表・ケアマネ）は書面で行い、職員との話し合いや共有も続けている。職員全員でプライドを持って仕事を行うように努め、職員の禁句として、「だめ」「やめて」「さわらないで」をホーム内に掲示し、日々の実践と振り返りに繋げている。転倒リスクが高い方は、夜間帯の安全確保への配慮も続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部にて研修を行いスタッフ全員が同じ認識のもと理解し共有出来るようにしている。		
自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受ける機会を設けたり内部研修も定期的に行うようにしている。	成年後見制度を利用する方もおられる。管理者が主になり、入居時に制度の説明を行い、入居後の家族状況の変化に応じて、再度制度の必要性の確認を続けている。内部研修（介護現場における権利擁護・利用者だけでなく職員の尊厳も守る）もを行い、権利擁護を学ぶ機会が作られている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には御家族に対して契約書・重要事項説明書を基に説明し疑問点等がないか確認しながら進めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の来所時にはお話し出来る時間を設けたり、中々お会い出来ない御家族に対しては電話等でお話する機会を作っている。	面会や電話、ホーム便りなどを通して、家族に暮らしぶりを報告している。家族が訪問時は笑顔で挨拶を心がけ、思いを話して頂けるように努めている。身体拘束をしない取組みや、夜間を含めた見守りの実状報告と共に、家族と一緒にデイケア（医療保険）の回数や訪問マッサージ等も検討している。今後も更に家族と担当者会議を行う機会を増やしていく予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会や申し送り時又は個別に話が聞ける機会を作り問題点や要望を前向きに進めるようにしている。	管理者を中心に結束を強めており、職員個々の育成も丁寧に行われている。着実に成長している職員が、少しでも長く勤務できることも大切にされており、現場の状況を社長等と共有している。行事開催の在り方も職員間で検討し、全職員が協力して楽しいひと時となるように努めている。職員それぞれに介護に対する価値観が異なる部分もあり、意見交換を続けている。	理念にある「敬う心をいつももち、自分らしく安心して暮らすことのできる憩いの場」に繋げていきたいと考えており、職員個々のケアに関する価値観を受容し、最適な妥協点を見出していく予定である。

12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の公休確保、有給もとれるよう業務改善、シフト調整を行い無理の無い環境作りを心がけている。又、外部の研修にも参加させ技術の向上、認知症についても学べる機会を作るようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たっては何の区別も無く未経験のスタッフも採用し働きながら資格習得をされている。それに対しても他のスタッフの協力体制がある。	採用時は「笑顔とコミュニケーション能力」を大切にしており、“東光寺”に合う方かどうかも見極めている。ステップアップのための異動もあり、異動前は職員の気持ちを確認している。管理者を含む支店会議もあり、社長等と現状共有している。職員の経験等に応じた育成を地道に続けており、管理者が課題を出し、虐待防止、誤薬予防、食中毒予防等のホーム内研修を続けている。公休・有給が取れるように業務改善とシフト調整を行い、無理の無い勤務シフトを心がけている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者様に対して人生の先輩として敬う気持ちを常に持ち個々の気持ちを尊重し対応してまいります。	理念である「ともに嬉しい時は喜びあい、困っている時は助け合い、敬う心をいつももち・・・」を共有すると共に、普段のケアの中で“入居者の権利は守れているのか”等の振り返りを続けている。管理者は個々の場面に応じた職員指導を行うと共に、「おはようございます」等の挨拶を徹底し、プロとしての仕事が行える環境作りに努めている。日々の関わりが「なあなあ」になり過ぎないように留意している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格を持たない職員がいる中、皆で話をする機会をったり認知症の理解を深めるよう外部研修に参加出来る環境作りに努めたり内部研修も定期的に行うようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し交流の場として活用している。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、御家族様との会話の中から困っている事、不安に感じている事等を聞き取り管理者、ケアマネ、担当者を中心に信頼関係を築き安心した生活が送れるよう努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネと居室担当者を中心にサービスを提案し御家族の要望を基に入居者様が安心して生活が出来るよう最善のケアを提供出来るよう努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	変化があった場合は直ぐにご家族に報告し継続的にご本人、御家族に話を伺いながら、その時に必要とする最善のサービス提供が出来るよう努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様個々の出来る事、出来ない事を見極めて出来る事はして頂き出来ない部分に関してはお手伝いし一緒に時間を過ごすように努めています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族になれない事を自覚しご本人と御家族の関係を一番に考え希望に添えるよう支援する事に努めています。		
自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の話を折に触れ聞いたり御家族とドライブして頂いたり来所は難しいが電話で話して頂いたりしている。	ご入居者の生活歴を把握している。コロナ以前は自宅に帰られたり、お墓参りに行かれる方もおられ、家族の協力で外食を楽しまれたり、家族や親戚、友達等もホームに来られていた。コロナ禍も家族や友達から年賀状や手紙が届いたり、電話での交流を継続している。	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが常に観察しながら個々の生活を守り、その中で交流の場や機会を設けたり声掛けを行ったりしている。		

24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでもフォローが出来るように時節のお便りを送ったり機会があればお電話をかけたりにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の気持ちを第一に日頃よりコミュニケーションをとるようにし定例会等で情報を共有し表現が困難な方に関しては表情で読み取れるよう普段から観察を充分行うように心がけている。	居室担当の職員と一緒に掃除等を行い、ご入居者の思いを伺ったり、生活歴を通して、好きなことを把握している。テレビを一緒に見ながら「美味しそう」等の思いを聞き取ったり、皇室好きな方は、皇室関連の番組を録画するようにしている。意思疎通が難しい方もおられ、表情や仕草から「寝たい」「トイレに行きたい」「家に帰りたい」等の思いを把握するようにしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の入居者様との会話を大事にし又、来所時、御家族に聞くなど個々を知る事によりサービスの向上につとめている。			
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送りにより心身の状態を把握しスタッフ全員が同じ認識で把握出来るように努めています。			
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心となり利用者や御家族に要望を聞きとりケアの在り方について定例会時に評価を行い計画作成担当者が現状に即した介護計画を定期的に作成している。又、状態によっては主治医に相談し薬等の見直しを行っている。	入居時は職員全員でアセスメントしている。計画作成担当（ケアマネ）が介護計画原案を作成し、会議で検討しており、ご入居者の残存能力を見極め、「できること」をして頂くように努めている。個別レクやリハビリを盛り込むと共に、週3回の訪問マッサージを受け、立位・歩行訓練をされる方や、医療保険でデイケア（週1回）を利用する方もおられる。担当職員がモニタリング（評価）を行い、職員全員で検討している。	①今後も「見守り」「一部介助」等の詳細や「介助理由」と共に、「できそうなこと」「行動障害の真の理由」「解決策」等の課題分析結果を増やしていく予定である。 ②介護計画2表の中に「ご本人」という表現を増やし、アセスメント内容と計画内容が連動するように努めていく予定である。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを利用し職員間で情報共有するよう努め申し送り等でも流しそれにより変化、気づきを支援内容や介護計画の見直しに活かしています。			

30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や外出等、その時の状況により職員が同伴し対応しています。入院された時等も関係が途絶えないよう面会に行くようにしています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や散歩時に情報提供しご近所の方に見かけた時は声掛け・施設への連絡等をして頂くようお願いしています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の医療連携をとり、月2回定期往診も行っている。訪問歯科、訪問看護にも週1回来て頂き医療体制を整えている。又、他の病院受診が必要な場合は御家族に相談の上、訪問ドクターを通じてスムーズに受診出来るようにしている。	職員の観察力もあり、必要時はスマホ（写真添付）で管理者（看護師）に報告しており、早期発見・早期対応に繋げている。往診時は管理者（看護師）が同席し、ご入居者個々の情報提供を行い、減薬に繋がる方もおられる。受診結果は管理者（看護師）が家族に報告し、家族の意向も確認している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師である管理者に変化や気になる事は相談し医療に繋げている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は定期的に病院訪問し関係者と情報交換を行い、それを訪問ドクターとも相談しながら早期退院となるよう体制を整えています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し了解をえり、機会があれば話題にしたりしている。又、重度化した場合は御家族、諸機関と話し合い相談しながら安心して終末期が送れるよう支援していく。	入居者全員、ホームでの看取りケアを希望されており、主治医と家族と連携し、最期まで誠心誠意のケアを続けている。家族も宿泊し、一緒に寄り添いを続けて下さる方もおられる。体調変化に応じて、適宜主治医に相談し、主治医の往診と訪問看護を利用しながら、ケア内容の話し合いが行われている。管理者（看護師）とデイの看護師に相談でき、職員の安心になっている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し解らない事は管理者や訪問看護師に指導してもらいながら行えるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低年2回以上はデイサービスとの合同も含み訓練を実施しています。	ハザードマップ上は危険地域ではないが、ホーム単独でBCP（事業継続計画）を作成し、適宜見直しを行っている。訓練はデイサービスと合同で行い、グループホームは夜間想定で訓練し、夜勤専従者とも避難方法を共有している。災害に備えて飲料水3日分、食料は常にストック、携帯ガスボンベ等を準備している。消防署は年2回点検に来られ、避難時は安全を考え「避難シューター」は使用せず、ベランダに出よう指示を頂いており、漏電対策も続けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定例会や申し送り時に言葉遣い、対応で気になる点は注意し合える環境作りを行っている。	入居者個々の自尊心や羞恥心に配慮し、入浴時等も希望に応じて同性介助が行われている。言葉遣いに留意し、「ダメ」「やめて」「座って」等の静止言葉を使用しないように努めている。職員個々に価値観が異なる部分もあり、共通認識を持つ取組みを続けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からコミュニケーションを大切に信頼関係を築き出来るだけ自発的な意見が出せるよう努めています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の決まり事はあまり作らず、その時々により変更する等、柔軟に対応するように努めています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容に来て頂いたり着替え等はご本人と洋服選びをしたり外出時は化粧も進めたりしている。母の日は口紅をプレゼントしたり身だしなみ品を送ったりしている。		

42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好や季節の物を取り入れるよう努めたり、おにぎりを作って頂いたり出来る事はなるべくして頂くようにしている。立位が不安定な方は食卓でお盆を拭いて頂いたり個々が出来る事を声掛けしている。	朝・夕と日曜（3食）はホームで手作りし、昼は1階のデイサービスで調理している。ご入居者もキャベツやニラを包丁でみじん切りし、餃子の具材を作ったり、盛り付け、下膳、食器洗い、食器拭き、テーブル拭き等をして下さる。嚥下状態に応じてミキサー食や刻み食などを準備し、優しい食事介助を続けている。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全入居者様の食事・水分量を毎日把握し訪問ドクターと相談しながら食事形態・内容を対応しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、週1回訪問歯科にも来て頂き個々にあったケアを指導して頂きながら実践しています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け個々の排泄パターンを把握し尿失禁が無いよう声掛けを行い誘導等支援しています。又、個々に合わせてパットの種類も使い分けるようにしています。	下着を着用し、排泄が自立している方や、失禁の不安があり、リハビリパンツを着用する方もおられる。ご本人の有する能力（できそうなこと）を検討し、日々のケアに活かしており、職員の観察力で、夜間帯にオムツ（パッド）使用の方をリハビリパンツ（パッド）に変更できた方もおられる。主治医と連携し、頻尿の方が少しでも安眠できる対応を続けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、ヨーグルト、牛乳等1日の献立に気を付けています。又、薬の調整を行ったり、運動、腹包温等を行い自然排便を促すようにしています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調に配慮しながら拒否が強い場合は延期したり衛生面を考慮し毎日入浴して頂く事もあり。又、入浴時浴槽の横に座りお湯をかけながら話す等コミュニケーションにも努めるようにしている。	入浴好きな方が多い。拒否が見られる際は無理強いないせず、様子観察しながら声かけをしたり、入浴剤を入れて気分を良くして頂いている。できる範囲は洗って頂き、シャワー浴の方は足浴も行い、保温に努めている。入浴時に職員との会話を楽しみ、菖蒲湯も行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に考慮しながら夜間の睡眠に支障がでないよう配慮しながら休息もして頂くように努めている。		

49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬リストを作成し既往歴・用法・容量が解るようにしている。又、服薬前には3重チェックを徹底し薬変更があった場合は薬ノートに記録し申し送りで全体に周知するようにしている。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存能力を見極めながら生活出来るように声掛けし寄り添いながら支援しています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族に声掛けしたり必要であればスタッフが同行するなどして支援しています。	コロナ以前は“いちご狩り”を楽しまれたり、地域の夏祭りに参加していた。ルミエールに買物に行き、洋服等を購入する方もおられた。手作り弁当を持参し、桜の花見を楽しまれ、ドライブや自宅訪問と共に、家族の協力で外食を楽しむこともできていた。コロナ禍も敷地内の散歩や受診時のドライブをされている。	①ご入居者の中には、「外に出たい」という希望もあり、今後も感染対策を行いながら、敷地内の散歩やドライブの機会を増やしていく予定である。 ②コロナ収束後は家族の協力をいただきながら、外食などを再開できればと思っている。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った時などは御本人に渡し見守りながら会計をして頂くようにしています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からの電話はもちろん御本人にもいつでも電話が出来るようお話し支援しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の菜園で季節の野菜等収穫したり施設内にも季節が感じられるようクリスマスにはツリーを飾り付けしたりし努めている。又、転倒しないよう動線には物を置かないようスタッフ1人1人が注意し見守りを重視するようにしている。	台所とリビングが一体化しており、外の景色を眺めることができる。台所からホーム各所が見えるように、壁に鏡を3か所配置している。冬場の浴室も温度管理を行い、換気と清掃は毎日行っており、季節の花も飾られている。食事の時は音楽を流し、会話を楽しまれており、ペランダでゆっくり会話ができる環境も作られている。廊下は天窓があり、明るさを保っている。2022年は共有空間各所のリフォームを行い、家族が宿泊できる場所を造り、壁紙等も張替え、浴室も使いやすくなる予定である。	

55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの座る席はそれぞれの相性を考慮し状況に合わせた臨機応変で対応するようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は出来るだけ御本人の使い慣れた家具、思い出の品等を置いて頂くようお願いし環境変化による混乱を最小限に抑えるよう配慮している。	1部屋はトイレ付きで、7部屋は洗面台が付いている。2つの部屋は洗面台が無く、居室前の共有洗面台を使用している。タンスや仏壇等を持ち込み、家族の写真やご自分で描かれた絵を飾っている方もおられ、適宜換気や清掃を行っている。ベランダに洗濯物干しがあり、下着を洗って干している方もおられる。2022年は居室の壁紙の張替え等が予定されている。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーにはすべて手摺を設置し安全にご自身で移動できるようにしている。又、訪問マッサージ等も利用し筋力低下等にもつとめている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				